

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401027		
法人名	有限会社 高齢者介護センター		
事業所名	グループホーム宮田		
所在地	千葉県千葉市若葉区中田町1041-1		
自己評価作成日	2019年10月28日	評価結果市町村受理日	2020年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2019年	12月	20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『利用者が長期にわたり、安心かつ快適に暮らせる共同生活の場として、機能するようがんばります』を当施設の理念として、職員一同、明るく元気に利用者様に接しております。特に力を入れている事は、『温かい雰囲気作りと家庭的なグループホーム』を維持していく為に、施設長を筆頭に全職員が一丸となり、協力して日々、介護サービス提供を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はグループホームとショートステイを提供している。職員は協力して利用者に暖かく寄り添い、利用者との良好な関係を築いている。代表、施設長は職員の研修・資格取得に力をいれており、地域社会との連携に取組んでいる。廊下やリビングの壁面に、理念、広報・行事写真の他、業務関連情報【組織体制・業務担当表、ホームの予定表、職員の行動表、資格・表彰、災害時の体制、緊急連絡先、訪問医・マッサージの来訪予定など】が一目でわかるよう掲示され、仕事の「見える化」で効率よく業務を行っている。施設のリビングの窓は大きく、自然陽光で明るい。トイレ、浴室、廊下、居室は清掃が行き届き、清潔感がある。日常使用する用品は使用する場所に置かれており、便利である。入居者は安心感と快適さの中で、介護レベルに応じた、可能な範囲の自立した生活を過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(○印を記入ください)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が長期にわたり、安心かつ快適に暮らし続ける事を支援し、介護サービスとして、実践している。	理念は事業所の玄関・廊下、パンフレットに明示されている。時折、職員の朝礼時や月1回のカンファレンスで、理念を確認している。毎日のサービスにおいて、利用者の安心と快適な生活に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月は納涼祭、12月には、クリスマス会を開催して、来賓として地域の方々や小学校の子供たちを招待して利用者様と地域の方々との交流の場としている。	ホームの納涼祭に地域の方々が参加している。地元スポーツ振興会が開催(千葉市・千葉TV等の後援)する大相撲力士ふれあい会に参加し、ちゃんこ料理や餅つき会を楽しんでおり、地域との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天候の良い日は、御近所へ職員と利用者様で散歩に出かけているので、地域の方々に挨拶や声を掛けて、認知症の人を理解して頂き、支援方法として活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、推進委員の方々に利用者状況やサービス提供の近況報告を行い質疑・応答・懇談の時に話し合い、意見交換の結果を今後のサービス提供の向上に活かしている。	運営推進会議を年4回開催。参加者は、職員、安心ケアセンター、民生委員、自治会長、小学校校長、薬局、家族代表、警察駐在所など多数多様であり、参加者の意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設の実情やケアサービスの取り組み内容を若葉区役所担当者に積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所利用者の大半は家族がいないため、職員が区役所に行って介護保険等の書類手続きをすることが多い。その他、電話で利用者の状況を説明し、相談することも多く、区役所との協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合は、御家族に説明をし、許可を得て対応し記録するが、日頃から、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議とは別に身体拘束適正化委員会を開催(年4回の予定、2回実施済み)し、身体拘束の状況を報告・記録している。身体拘束をしたことはない。玄関は昼間は施錠しないが、夜間は安全対策として施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対し不適切な言葉遣いがないように、定期的に座学・実施での研修を徹底し、虐待に対しての知識を高めている。また職員間で注意をしかえるような環境を構築し、あらゆる虐待の発生を防げるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーよりカンファレンスの時に権利擁護に関する日常生活自立支援事業や成年後見制度の説明を受け、学ぶ機会を持ち個々の必要性を話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様の契約解除の際は、御家族に、十分な説明を行い御理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見や利用者様本人の要望を、出来る限りくみ取るように努め、施設運営に反映させている。	介護度の高い利用者が多いので、本人の話聞き関係性をつくるようにしている。利用者の大半は家族がなく、家族の要望を聞くことは少ないが、電話で家族に利用者の状況を伝え、家族の話聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで、職員の意見や提案を出し合い代表者・管理者がそれを聞く機会を設けて、施設運営に反映させている。	毎月1回カンファレンスを行い、当日出勤者全員がカンファレンスに参加している。カンファレンスでは自由闊達に意見を出し合い、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員が日々、向上心を持って働ける職場環境と条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に、法人内外の研修を受ける機会の確保に努め、職員自ら、向上心を持ち、積極的に研修に参加するよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が外部の研修に参加し、そこで同業者との交流を通じて、介護サービスの質を向上させていく為に、研修参加の確保と取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、日頃から利用者様の不安や要望等に耳を傾けながら、利用者様の安心を確保する為の信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規に利用者様が当施設に入所される段階で、家族が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、家族とも信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設に入所される段階で、本人と家族が、その時必要としている支援を見極め、早急に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日頃から、家族的な雰囲気を利用して、利用者様に接して、支援する関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族とも連携し、「家族の絆」を大切にしながら、利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が、今まで大切にしてきた馴染みの人との交流を持てるように、また思い出の場所など関係が途切れぬ支援に努めている。	家族のない利用者が殆どであるため、馴染みの人(昔の知人等)は少ない。馴染みの人から電話が来たり、来訪があった場合は、関係が継続できるように配慮しサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、日頃から、利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないように、利用者同士の支え合いが出来るように、雰囲気作りをしながら、利用者様の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いや、今後の暮らし方の希望、意向の把握に努めながら、困難な場合でも、検討している。	職員は朝晩必ず利用者に挨拶して信頼関係を築き、何気ない会話から希望や意向を聴き出している。言葉だけでなく表情や態度からも感情を読み取り意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴やアセスメントにて、これまでのサービス利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の暮らしの現状は、施設介護経過表、施設ケア記録表を毎日記録し、心身状態や有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで、代表者、管理者、ケアマネジャー、職員が意見交換をし、利用者様本人の意思も尊重しながら、それを反映させて、現状に即した介護計画書を作成している。	カンファレンスでは業務日誌と施設ケア記録表に基づき意見交換し、利用者の意思も尊重して長短期目標を設定し介護計画書を作成している。毎月モニタリングし、都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、気づいた事、工夫事項を施設ケア記録表に記録し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の質を一定以上のレベルまで到達、維持又は、回復する為に必要な物に対応して、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員や、地域の人達の協力を得て、安全な暮らしを利用者様が楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療受診は、御家族の承諾を得て、提携先の医療機関や訪問診療を定期的に受診して、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医(内科医)による月2回の訪問診療があり、看護師2名も同行して来る。利用者や家族の承諾を得て、提携医療機関での受診や、訪問歯科・訪問マッサージ等の支援もある。ソーシャルワーカーも定期的に訪問して来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携先の医療機関の看護師や訪問診療の看護師に相談しながら、利用者様が適切な受診や、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先医療機関の関係者と情報交換や、相談しながら、入退院時に備えた関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のいる利用者様は、家族と話し合い重度化した場合や終末期のあり方について、施設で出来る事として十分に説明を行い、提携医療機関や訪問医療もお願いしている。医療機関と施設の方針を共有し支援に取り組んでいる。	昨年以前は看取り介護をしてなかったが、本年度の途中から看取り介護を行っている。利用者に「看取り介護」の方針を説明し同意書で確認するとともに、医療行為や延命治療は行わず訪問診療の医師と相談し指示を仰いで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の初期対応の実技講習を定期的に行い、ケアの実践をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地元の消防署に協力を要請して、防災避難訓練を行っている。	消防署、防災設備専門会社が個別に立会い年2回の避難訓練をした。夜間想定避難に重点を置いた。消防署員から止血法の講習を受けた。災害時の停電対策に発電機を購入、飲料水の備蓄を見直した。	想定外とされる今年度の台風被害の経験を踏まえて、リスクの見直しと対応策の再検討が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を行っている。	利用者の身体や精神を抑制する言葉や態度を防ぎ、命令や禁止、自尊心を傷つけるような否定的な言葉かけはしない事を職員間で共有している。万が一介護中に見受けられたときは、すぐに注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、希望や思いを自己決定出来るような雰囲気作りをしながら、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日々のペースを大切に、その日をどのように過ごされたいか、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりの要望に合わせて、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在、一部の利用者様と職員が、一緒に食事の配膳や片付けをしたり、利用者様同士で出来る人が声掛けしながら手助けをしている。	ご飯、みそ汁以外は栄養士管理の宅配食を利用し、個々の状態に適した食事形態で食事を提供している。レストランでの外食やホットケーキパーティ、お誕生日会のケーキも楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の一日の食事・水分摂取量をチェックして、施設ケア経過表に記録して健康状態や能力に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、夕食後に、利用者様一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、一人ひとりの力に応じて、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	水分摂取量や排便チェックから排泄パターンを観察し、声掛けでトイレ誘導し自立排泄を促している。車椅子に乗ったままでトイレに入れる。オムツパット等は個人別の籠に収納し迅速に交換できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や、散歩に出かけたり、各利用者様に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の意思を尊重し、個々に沿った入浴を楽しめる支援を行っている。またその人の能力に合った支援をすることで、できる事の喜びを感じていただいている。	脱衣所・浴室は清潔で暖房器具の設置でヒートショック対策に配慮している。週2回午前中に個浴ができる。白癬菌の治療や予防のための足浴、入浴後は個々に処方された保湿剤の塗布など個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の、利用者様一人ひとりの状況に応じて、利用者様が休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者様一人ひとりが内服している薬の用途が何時でも分かるように、薬歴を確認し、服薬の支援と症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や遊具等を使用して、楽しみ事の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人ひとりの希望を把握し、戸外に出かけたり、又、本人の希望で、お墓参りに出かけている。	天気の良い日は散歩や近くのコンビニに買い物に出かけている。ホームの福祉車両を利用して公園での花見や地域行事「ふれあい相撲大会」への参加やショッピングモールで好きな小物を購入後に外食するなど、車椅子利用者も楽しめるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚を認知症の影響で無くしている為、本人の管理が難しいので、職員が一時預かり、本人と一緒に買い物に行き、お金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙のやり取りは、本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、工夫しながら、又、利用者様によっては、不快音や光、温度が、不愉快になる事もある為、特に配慮し、居心地良く過ごせるようにしている。	ホームは臭気もなく清潔感がある。室内の温度管理には特に配慮している。リビングには共同制作のクリスマスの飾りや思い出の写真が貼られ、毎日体操や、歌唱、レクリエーションなどを楽しみながら交流や機能訓練をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、利用者様一人ひとりが、思ったように過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が使い慣れた物を置いたり、快適に居心地良く過ごせるように工夫している。時にはスタッフが声掛けしながらともに居室の片づけを行ったりもする。	転倒防止のため床には物を置かず、備付けクロゼットに衣類や備品を収納し整理している。各居室のドアに手作りカレンダー、シーツ交換日や診察予約票などが掲示され、職員間の情報共有と業務効率が図られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの力に応じて、出来る限り自立した生活を送れるように努めている。		